

## 寅さん歩 その 25

### 谷端川の流れを歩くー2



平野 武宏

前回は暗渠となった「谷端川 (やばたがわ)」の水源からの流れを辿り、豊島区内を新宿区方面手前まで南下、西武池袋線の椎名町駅まで歩きました。今回は西武池袋線を渡り、椎名町駅南側を迂回し、再度西武池袋線を渡り、山手通りに沿った谷端川南緑道を北上して、有楽町線要町駅付近まで歩きます。写真上右は谷端川南緑道です。写真下は豊島区内の谷端川の流れです。



バーチャルウォークの途中経過も報告します。



今回も人流の増を避けて休日の早朝に池袋駅から西武池袋線に乗り、前回の終了地点椎名町駅北口からスタートです。写真左の踏切を渡り、椎名町公園角を左折 (写真下左)、山手通り下を通過 (写真下右) します。



## [山手通り]

東京の城南地域を環状方向に新宿区、品川区、目黒区、渋谷区、中野区、豊島区、板橋区を通る道路で、品川区の海岸通り新東海橋交差点から板橋区の中山道仲宿交差点まで延長 19 k m です。谷端川の流れは山手通りと並行します。山手通りの写真は交差する地点でお見せします。

谷端川の流れは写真下左の豊島区西部福祉事務所(仮施設)の脇を直進し、先で左折、西武池袋線(写真下右)を渡り、先を右折、「谷端川南緑道」に入ります。



## [谷端川南緑道]

「谷端川」は昭和 37 年(1962 年)に河川としては廃止、暗渠化され下水道幹線となりました。豊島区は谷端川跡を児童公園、親水公園、花木を植えた散歩道への整備を始め、整備が終了した平成 2 年(1990 年)に西武池袋線から川越街道までを「谷端川南緑道」(豊島区管理)としました。写真下はその入り口で、当時の「宮下橋」(写真下)のモニュメントがあります。緩やかな曲線を描く谷端川だった上の散歩道は大変気持ちが良いです。途中に谷端川緑道散歩のマップが掲示されていて現在どこを歩いているのかわかります。



緑道入り口が「宮下橋」(西池袋4-14と4-36の間)です。長崎神社下の橋という意味だそうです。写真左の右側にある白い板が散歩マップです。下に拡大しました。現在地の「宮下橋」は図の右端下です。楽しい緑道散歩になりそうです。



川の流れと交差する道路を横切りながら進みます。道路にはそれぞれ橋が架かっていたようで、橋名の由来も楽しめます。写真下右の道路の端に「羽黒橋」の石標があり、左側に神社が見えました。羽黒神社に由来の橋名です。



## [羽黒神社] 豊島区西池袋 4-23-3



創建年代は不詳ですが、山形県の出羽三山(羽黒山、月山、湯殿山)の出羽三山神社より分霊され、明治2年(1869年)の社寺取調書によると武蔵国豊島郡長崎村の一社となっています。日本人の礼儀として西の「お伊勢参り」と並んで東の出羽三山の「奥参り」があったとのこと。

写真下は立教通りと交差する「霜田橋」(西池袋4-18と4-19の間)で、霜田は下田(ゲデン)から変わったもので、関東の検地では一反歩あたり玄米一石一斗を産出する田畑を下田と云いました。緑道の右側は立教大学用地(西池袋3丁目)で、その先はJR池袋駅西口です。



「霜田橋」の先にある谷端川第二親水公園(写真下右)です。途中にある子供の像(写真下右)です。ところどころにこのような彫刻がありました。



緑道の進行方向の左側は山手通りと首都高速中央環状線が走っています。道路は見えませんが、通行する車の音が聞こえてきます。写真下左は「丸山橋」(西池袋5-22と5-27の間)です。丸山とは地名とのことです。やがて緑道は池袋駅西口からの広い道路(放射36号道路)に突き当たります。



写真下左は「長崎橋跡」の石標で長崎地区の橋で長崎橋とのこと。奥から緑道を歩いてきました。豊島区立郷土資料館友の会の資料によると、椎名町駅から「長崎橋」までに10の橋が確認されています。南緑道に入ってから7つの橋の位置に橋名の銘板付きのモニュメントが再現されていました。写真下右は要町一丁目交差点手前で交差点の先からは要町通りとなり、前回の出発点の千川駅の脇につながります。交差しているのは山手通りです。写真下右の駅は有楽町線/副都心線の要町駅入り口です。



幹線道路なのに休日の早朝なので交通量が少ないです。早起きは三文の得、写真撮影にも最適です。谷端川の流れは道路を横断して直進しますが、今回はここまでとして、右手にある古刹に立ち寄りました。右をそのまま進むとJR池袋駅西口に突き当たります。

## 〔祥雲寺〕 豊島区池袋 3-1-6

右手の祥雲寺坂を上ると、「祥雲寺」があります。写真下左は山門、写真下右は本堂です。



山門脇の説明板には「後北条の重臣江戸城主 遠山隼人景久によって、永禄7年（1564年）に江戸城和田倉門内に駒込吉祥寺の末寺として創建された曹洞宗のお寺。開山は吉祥寺安充和尚である。当初は景久の室の菩提所として浄光院と称した。永禄7年に戦死した景久の法号から瑞鳳山浄光院と号した。天正18年（1590年）後北条滅亡にともない遠山氏も退転したため、しばらくは吉祥寺の隠居所となった。寛永10年（1709年）信州松本藩主戸田氏が壇越となり寺の維持に尽力した。5代将軍徳川綱吉の死により御台所が落飾して浄光院殿と称したのを憚り、瑞鳳山祥雲寺と改号した。当地へは明治39年（1906年）小石川区戸崎台より移転」と記載。信州松本藩主戸田家の墓、首切り役人の山田浅右衛門の墓碑、漫画家の石ノ森章太郎の墓などがあります。又、近くには明治43年（1910年）に移転してきた「功雲院」、大正3年（1914年）に移転してきた「洞雲寺」があります。

次回はこの地点から谷端川南緑道の続きを歩き、川越街道を横切り、谷端川児童遊園、谷端川北緑道、JR板橋駅を經由し、明治通りまでの川の流れを歩きます。お楽しみに！

## 〔バーチャルウォーク途中経過〕

八柳修之さん作成の多くのバーチャルウォークコースがFWAホームページ「YR・四季の道」に掲載されています。寅次郎、「日光道中二十一次」を終え、宇都宮に戻り、バーチャルウォーク「奥州街道を竜飛岬まで」に挑戦です。

「奥州街道」の日本橋から宇都宮までは「日光街道（道中）」と共用なので宇都宮を出発点としました。2020年12月23日栃木県宇都宮市を出立、2021年7月9日、藤島宿（江戸から674Kmで現在の青森県十和田市）に到着しました。

新型コロナウイルス感染拡大の終息には程遠い状況です。運動不足にならないように自宅近くにマイお散歩コースを見つけ、その距離を累計して楽しむバーチャルウォークを始めませんか。毎日の歩いた距離を色塗りして進むバーチャルウォークはやりがいがあります。FWAのHP「YR・四季の道」の「バーチャルウォークコーナー」には各ロングコースが紹介されています。また「ひとり歩きコーナー」には地図付きの各コースがありますので選んで利用してください。歩く際は密閉・密集・密接の密にならないようご注意ください！

平野 寅次郎 拝